

バリアフリートイレ ネットで検索

多目的(バリアフリー)トイレの場所を尋ねられたら、答えられますか。県のIT(情報技術)ベンチャー創業支援施設「iプラザ」に入居して交流のあった大分市内の3社が、全国の多目的トイレの情報を共有するサイト「多目的トイレマップ」の運営を始めた。10月には県内で全国障害者スポーツ大会も開催されることもあり、「全国から来られる選手のみなさんにも活用してほしい」としている。

(黒川真里会)

iプラザ出身3社が全国マップ

サイトを運営しているのは、iプラザに入居中の「Beiproject」と、かつて入居していた「ライフ・エモーション」「ザイナス」の3社。iプラザは高速インターネット環境が整った事務室が入る施設で、3年以内に県内で事業活動をすることを条件に、県が創業5年未満

「外出する時、トイレを探すのが大変」。きっかけは、ライフ・エモーションの藤元宏一社長(41)が、車いすを使う知人から聞いたこの一言だった。昨年からiプラザで交流のあった2社と準備を



① サイト「多目的トイレマップ」で、全国障害者スポーツ大会の会場周辺の情報を一覧にしているページの一部② 携帯電話用のQRコード

「障害者スポーツ大会で活用を」

始め、今年2月に地図上に多目的トイレの位置情報を示すサイトを立ち上げた。

サイトには全国の多目的トイレの場所や利用できる時間、写真や評価などが利用者の手で登録されている。情報の共有を目的にしており、登録も閲覧も無料だ。携帯電話からもアクセスが可能で、全球測位システム(GPS)機能を使って、現在地近くの多目的トイレを探すことができる。

現在登録されている多目的トイレ情報は全国約5500カ所。県内の登録数は1150カ所を超えている。

多目的トイレを利用する人にとって、自宅周辺の情報には通じていても、旅行先など慣れない土地での情報収集には困難が付きまとう。「まづ多くの人に活用してもらいたい」と、Beiprojectの片山勇社長(40)は話す。

選手ら約7千人が訪れる全国障害者スポーツ大会は、サイトを活用してもらいたい機会だと考えている。5月に県に連携を呼びかけ、8月から県がネット上で県内のバリアフリー情報を公開しているページと相互リンクを張った。同大会が開催される15会場周辺の情報を一覧にまとめたページも公開している。

多目的トイレマップのURLは(<http://wc.m47.jp>)。